

広報

どうし

道志村民憲章

私たちの七里は、緑と清流と歴史の郷です。この地に生きること誇りをもち、平和な村を築くため、ここに憲章を定めます。

私たちは

- 一、自然を愛し平和な村をつくりたい。
- 一、生産に励み豊かな村をつくりたい。
- 一、伝統を重んじ、教養を高め文化の村をつくりたい。
- 一、人情といたわりの心を養い、福祉の村をつくりたい。
- 一、明るく健康で、活力ある村をつくりたい。

2002 August 8月号



観光客で賑わう道の駅どうしと道志川

考えてみよう



山梨県東部広域地域の合併

山梨県では、市町村合併の検討にあたって、27の合併パターンを示しています。その中で、道志村が含まれる東部地域については、「山梨県東部広域連合の成果をふまえながら、地域全体の合併の機運の醸成を図る中で検討を進める。」としています。

広域連合については、都留市、大月市、上野原町、秋山村、道志村、丹波山村、小菅村の7市町村をもって、平成11年9月からスタートしています。この中で介護保険の認定審査会の実施や東部養護老人ホームの運営等を行っています。このほかにも、広域的に処理を行うことにより効率・効果が図れる事務事業について検討を進めることとしています。

これらが、このまま合併につながるとなると、まだまだ充分なる論議が必要となっています。仮に、この7市町村が合併することになりますと、人口規模で、約10万3千人、行政面積で864.3km²という非常に大きな市となり、これだけを踏まえても、多くの課題が想定されています。



市町村	人口(人)	面積(Km ²)	普通会計決算額(百万円)	
			歳入	歳出
道志村	2,087	79.57	2,824	2,685
都留市	35,513	161.58	14,906	14,268
大月市	33,124	280.30	14,680	14,268
上野原町	27,771	125.51	11,325	9,996
秋山村	2,386	45.14	2,402	2,318
小菅村	1,084	52.65	2,578	2,432
丹波山村	866	101.55	1,748	1,555
合計	102,831	846.30	50,463	47,522

*人口は、平成12年度国勢調査人口
面積は、平成12年10月1日現在
普通会計決算額は、平成12年度決算状況調べ

前回広報では、「市町村合併論議の背景」等について、お知らせしました。今回は、こうした背景の中で、山梨県内の動きや村の状況等について、お知らせします。

山梨県内の動き

山梨県内64市町村の1市町村あたりの平均人口は13810人で全国平均の3分の1、1市町村あたりの平均面積は69.77km²と全国平均の約半分となっています。

また、1市町村あたりの平均財政規模は、全国都道府県中最も小さい状況にあります。市町村の財政状況を人口規模別に見ると、人口規模の大きい市町村ほど自主財源比率は高く、決算歳出額も大きくなり、逆に、職員の人件費や公債費など義務的経費の住民一人あたりの額は、人口規模の小さい市町村ほど大きくなる傾向にあります。



こうした状況の中で、地形や水系など自然条件のきびしさや制約はあるものの、財政的にも虚弱な市町村が多いことから多様化・高度化する住民ニーズや地方分権の進展に的確に対応するためには、市町村のあり方について検討していくことが必要になっていることから、比較的早い段階で論議が進められています。

県内では9地区（39市町村）において、法定又は任意の合併協議会を設置し、構成市町村で合併に向けた具体的な検討と手続に入っています。

また、一方早川町では、町民アンケートの中で合併に否定的な回答が多数を占めたことから峡南三町との合併論議から抜け、単独での存続を選択し町民一丸となって町を守っていく方針を決定しています。

道志村においては、国からの交付税の大幅な減額や、村税の伸び悩みなど厳しい財政事情が続くことが見込まれ、このことは村の運営や事務事業の執行にも影響が及ぶことが予想されます。小規模な自治体は存続を含めて、市町村合併問題を真剣に考えて行かなければなりません。

村では、住民参加組織として「合併問題検討住民懇話会」を立ち上げ研究会や講演会を行った後に「住民意識調査」や「住民懇談会」を順次実施したいと考えています。

そして、来年3月末を目途に、合併特例法の期限までの合併の方向性(する、しない、できない)を打ち出していきたいと思えます。

皆様の意見をお寄せ下さい

役場企画財政課 TEL 52 - 2111 内線15.16

中田宏横浜市長を表敬訪問

去る七月三日、道志村と道志村議会は、横浜市役所において中田宏市長を表敬訪問しました。

中田市長は、サッカーワールドカップの地元開催で、しかも決勝戦直後で公務多忙の中にも係わらず、私共の訪問を心から喜び歓迎してくだ

さいました。

あいさつの中で市長は「本来なら私の方が道志村へ行かなければならない立場ですが、皆様から先に横浜市に向いて戴き恐縮しています。私達の市民生活に欠くことの出来ない貴重なおいしい水を道志村から毎日送って戴き感謝しております。今後長い友好の歴史を大切に更なる発展を願っています」と述べられました。

一方村長からは「当選おめでとうございます。道志村の地域振興に対する横浜市のご配慮に感謝します。水源地として水質保全にはあらゆる努力をして行く。両市村の絆は次の世紀を越え永く続きます。市長の益々のご活躍を祈念します。」とあいさつされた。

また、歓談の中で村長から「道志村へ一度お出掛けください。」と一言と市長は「近いうちに必ず伺いま



中田市長を囲んで（清水助役、金近局長も同席）



中田宏横浜市長プロフィール

- 1964年 昭和39年生れ37歳
 - 1983年 関東高校空手道選手権大会準優勝
 - 1989年 青山学院大学卒業
松下政経塾入塾
ゴミ問題の研究、リサイクルアドバイザーとして活躍
 - 1992年 日本新党旗揚げに参画
 - 1993年 第40回総選挙に立候補トップ当選
衆議院議員3期務める
この間、大蔵、運輸、予算、内閣逓信各委員、地方分権に関する特別委員、金融安定化特別委員、財政構造改革特別委員を歴任
 - 2002年 横浜市長に当選
- 著書 新党の挑戦、国会の掟
行政のレシピ、新しい日本

「す」と関心を示されるなど、終始なごやかな中で歓談が行われた。中田市長は、スマートでソフトさと精悍さを併せ持った国際港都横浜の若きリーダーである。との印象を強く感じた表敬訪問でありました。なお、市役所を後にし、市の発展のシンボルである「みなとみらい21地区」の開発状況、大改修された海の玄関口「大榭橋ターミナル」及び海事広報艇はまどり号による横浜港周辺の視察を行うことができました。（追伸）



公益信託 道志水源基金



運営委員会、作業部会の皆さん

平成十四年度の運営委員会が七月四日、横浜市水道局 道志水源林管理所において、開催された。
元東京大学教授の藤田運営委員長が議長を努め、平成十三年度の収支決算報告と事業報告の承認、また、平成十四年度の予算計画及び、助成事業の選考と助成額が審議され決定しました。



第16回 ほたるまつり 緑と清流の里 自然とふれあい満喫



第十六回道志村ほたる祭が、七月十三日、観光農園広場で、午後三時から観光協会主催により開催された。内容は、今年も木製文字盤時計づくりや、マスコットキーホルダーづくり、ほたるカゴづくり、またヤマメのつかみどりなどが行なわれ村内外からも大勢の方が参加しました。

特設のテントでは、農業委員会によるとうもろこしの即売や、生活改善グループによる赤しそジュースの即売、青年団による、かき氷、やき鳥、金魚すくいなど、また道志特産のクレソンせんべい、酒まんじゅうの即売、郡内地場産業センターによるワイン等の出店があり祭りも一層盛り上がり、最後をかざる打上げ花火は迫力があり上がるたびに大きな声援が送られました。園内のホタル池周辺にはホタルが舞い始める、ホタルを観賞する家族連や、子供たちで賑わっていました。